

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラム開発に関する研究
研究分担者 長谷川 裕紀
武庫川女子大学短期大学部 食生活学科 講師

研究要旨

若手医師ががん患者の栄養学的特徴や臨床栄養の基本的知識を習得するための「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行った。昨年度の実績をもとに内容の見直しを行い、体系的な学習プログラムに改善を図った。「がんと栄養」に関する知識は医療従事者であっても十分に持ち合わせておらず、講義と多職種参加型の症例検討グループワークによって、総合的な栄養サポートをチームで担う在宅医療人材の育成が可能となる。

A. 研究目的

がん患者では、栄養障害が高率に起こるが、年々がん患者数が増加し、地域では栄養サポートが必要な在宅がん患者が増加している。地域包括ケアシステムが推進されるなかで、医療と介護の連携に代表される多職種協働によって患者の生活を支える視点が重要であり、在宅がん患者に対して包括的な栄養サポートを実施するためには、医師、看護師、管理栄養士などが連携して取り組む必要がある。しかしながら、このような在宅医療を担う人材は不足しているのが現状である。

このような背景から、本研究では「がんと栄養」を理解した在宅医療を担う人材を育成するために、「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行う。平成 27 年度は昨年度に試行した講座の見直しを行い、2 日間の日程で体系的に学習できるプログラムに改善を図る。

B. 研究方法

1) 「臨床栄養スタートアップ講座」の企画・開発

昨年度は1日間で講義2題、特別講演1題、症例検討グループワークという構成であったが、27年度は2日間の日程で臨床栄養の基本知識に関する講義4題、がんと栄養の基本知識に関する特別講演2題と講義1題、症例検討グループワークの構成とし、内容の充実化を図った。

2) グループワークで検討する症例

糖尿病併存の化学療法を受けた肺がん患者を症例(1)とし、検討課題を以下の2点とした。

症例の栄養学的な問題点をあげる

症例の短期的および中期的な目標を設定し、それに向けて必要な対策をあげる

参加者はあらかじめこの2点について自身の考えをまとめてから、スタートアップ講座を受講する。

3) アンケート調査

より充実した教育プログラムに改善を図るために、講座を受講した参加者にアンケート調査を行い、内容の見直しを行う。
アンケート調査項目 1日目:「がんと栄養」に関する知識はどの程度持っているか、スタートアップ講座に参加した理由、ご意見(自由記述)など。アンケート調査項目 2日目:グループワークの満足度・今後の臨床でどの程度役に立つか・感想(自由記述)、本講座への要望(自由記述)など(倫理面への配慮)

「個人情報保護法」を遵守した。アンケートは無記名の用紙で実施し匿名化されており倫理面での問題はない。

C. 研究結果

1)「臨床栄養スタートアップ講座」を下記の内容で開催した。

日程:1日目 平成27年10月10日(土)

2日目 平成27年10月24日(土)

場所:兵庫医科大学

プログラム 1日目:

講義 臨床栄養の基礎知識/臨床栄養管理のポイント

講義 栄養学的見地からみた糖尿病治療

特別講演「がん患者の栄養管理

～早期がん治療から緩和医療まで～」

上尾中央総合病院 栄養サポートセンター
センター長 大村健二先生

講義 高齢者の栄養学的特徴

症例紹介とグループワークオリエンテーション

プログラム 2日目:

講義 在宅療養者の栄養管理の現状と課題

特別講演「がん治療における栄養管理」

田無病院院長 丸山道夫先生

講義 がん患者の栄養学的特徴
症例の多職種小グループワーク

2)参加者

1日目の参加者は医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、学生など70名、2日目は59名であった。

3)症例検討グループワークの実施

参加者を7グループに分け、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士の参加者が多職種になるようグループを割り当てた。グループにはノートパソコンを1台用意し、グループで検討した症例課題の内容をパワーポイント数枚にまとめる。最後に全体で発表会を行い、質疑応答をすることで各グループにおいて検討した内容を参加者全員で共有できるようにした。課題に対する各グループの検討内容はだまかに以下の通りであった。

栄養学的な課題

- ・低栄養
- ・食事摂取量の低下
- ・体重減少(除脂肪体重の減少)
- ・味覚異常
- ・糖尿病

短期的目標とその対策

短期的目標

- ・経口摂取量の改善(食事摂取量の充足)
- ・栄養補給の方法(栄養補助食品)の検討
- ・除脂肪体重の維持

対策

- ・嗜好調査、嗜好調整
- ・栄養指導

中期的目標とその対策

中期的目標

- ・血糖コントロール

- ・ Q O L の維持
- ・ 筋肉量の維持・増加

対策

- ・ 血糖降下薬の再開の検討
- ・ リハビリ介入
- ・ 栄養指導

4) アンケート調査結果

回収できたアンケート数は1日目58(回収率83%)、2日目33(回収率56%)であった。1日目の回答より、「がんと栄養」に関する知識についてどの程度持っているかについては、「十分持っている(1.8%)」「少しは持っている(60.7%)」「ほとんど持っていない、まったく持っていない(37.5%)」という回答であった。スタートアップ講座に参加した理由(抜粋)については、「臨床に応じた栄養管理の必要性を感じているため(医師)」、「臨床でがん患者への栄養指導をどのようにしたら良いかわからなかったから(看護師)」、「栄養学的に臨床にどうアプローチしているのか、他職種の内容を学習したいと思った(薬剤師)」、「訪問栄養食事指導でがん患者と接する機会があるため(管理栄養士)」、「がんに対する栄養管理は何をしたらよいのかかわからなかったため(管理栄養士)」という回答があった。

また2日目の回答より、グループワークの満足度については「大変満足(40%)」、「満足(52%)」、「どちらともいえない(8%)」、「不満、大変不満(0%)」であった。グループワークは今後の臨床でどの程度役に立つかについては「とても役に立つ(45.5%)」、「役に立つ(45.5%)」、「どちらともいえない(9.0%)」、「あまり役に立たない、役に立たない(0%)」であった。

グループワークの感想(抜粋)は「立場の違った人たちの意見交換ができ、とても意義ある時間が過ごせた(看護師)」、「多職種でのグループワークであり、今後のモチベーションアップにもなる内容でよかった(管理栄養士)」、「他施設、多職種の方のお話が聞けてよかった(管理栄養士)」という声があった。

D. 考察

本研究では、昨年の講座内容から内容の見直しと充実化を図り、「がんと栄養」に関する知識を体系的に学習できるプログラムを構築した。「がんと栄養」に関する知識は、アンケート結果から医療従事者であっても十分な知識は持ち合わせていないことがわかる。また、本講座への参加理由からは、がん患者への栄養指導に関する知識や方法を習得したいという希望も伺える。これらのことから、「がんと栄養」を理解した在宅医療人材の育成は喫緊の課題であり、今後、本講座のさらなる展開をめざしていく必要がある。

症例検討グループワークでは、1日目にオリエンテーションの時間をとり、参加者に直接、症例を具体的に紹介することで、検討課題を明確にすることができた。グループワークの満足度は高く、今後の自身の臨床に役に立つと感じた参加者が多かった。したがって、症例検討グループワークの内容は、臨床現場に即した実践的なものであったと考えられる。

一方で、本講座への意見として「化学療法やがん切除後の実際の栄養指導について具体的に聞きたい」、「腎臓病・肝臓病などの症例が聞きたい」、「急性期の栄養管理に

ついて聞きたい」という具体的な要望があった。来年度の実施に向けて、臨床現場での課題やニーズを取り入れ、総合的な栄養サポートをチームで担う在宅医療人材の教育プログラムを検討していく。

E．結論

「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行った。在宅がん患者に対する栄養サポートの質の向上には、多職種連携の取り組みが有効であり、本講座によってがんと栄養を含む臨床栄養の基本的知識を身につけることが可能になる。

G．研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
- 3.その他 なし

(1) 症例課題の内容

添付資料

資料 1

臨床栄養スタートアップ講座 チラシ

資料 2

症例課題の内容

資料 3

グループワークのまとめ資料